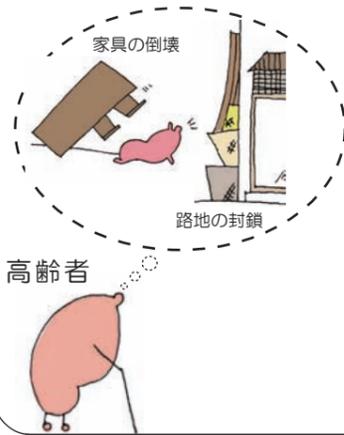


【木密ハローワーク】

木密住宅という言葉を見て人々は何を思うだろうか。

文字だけを見ればなんとなく意味の掴めそうな言葉だが、実際に木密住宅というものがどういった存在で、そしてどんな危険を孕んでいるのかを我々は理解していない。建物の倒壊、通れない逃げ道。いつ訪れるかわからない危険に対して、プロに修繕を任せようという考えですすでに遅すぎるのではないか。まずは住民同士でできることを。そして、小さな事の積み重ねから来る住民の意識変化こそが建て替えにも取り壊しにも負けない最強の防災になる。



-木密ハローワークのしくみ-

住民同士でできることは「助け合い」である。しかし、誰が何を求めているかわからないから助け合いはしづらい。だからこそ気軽に助け合いのできる、木密ハローワークという存在が必要なのだ。

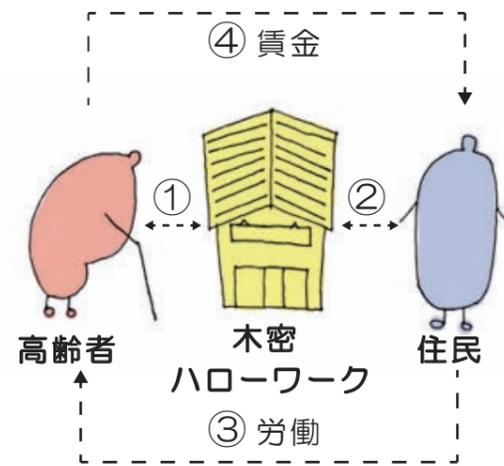
ハローワークは木密住宅内の空き事務所を間借りする。これは何かのついでにハローワークに通えるような身近さを生む狙いがある。

気軽さと身近さを兼ね備えることで「できるうちに防災対策をしよう」という意識が生まれるのだ。

- 木密ハローワークがつなぐ地域ネットワークサイクル -

① 高齢者⇄ハローワーク

崩れそうな棚を直したり、倒れそうなたんすを補強したり、防災対策は思ったよりも力がある。しかしそれを自分でやれ、というのは足腰の弱った高齢者には酷な話だ。そんな高齢者はハローワークで自分の家の防災対策をしてくれる人間を募集する。いくら払えばいいのかはハローワーク内で仕事によって相場を決めてある。



② 地域住民⇄ハローワーク

木密住宅は築年数が古いものが多く、家賃も安い。そのため木密住宅に家を借りる人も『ハチミツとクローバー』（羽海野チカ作）の登場人物のような貧乏学生がいたりする。そんな金欠気味の住民がハローワークで自分のスケジュールと求人を見て空いている時間にちょっとした小遣い稼ぎをする。

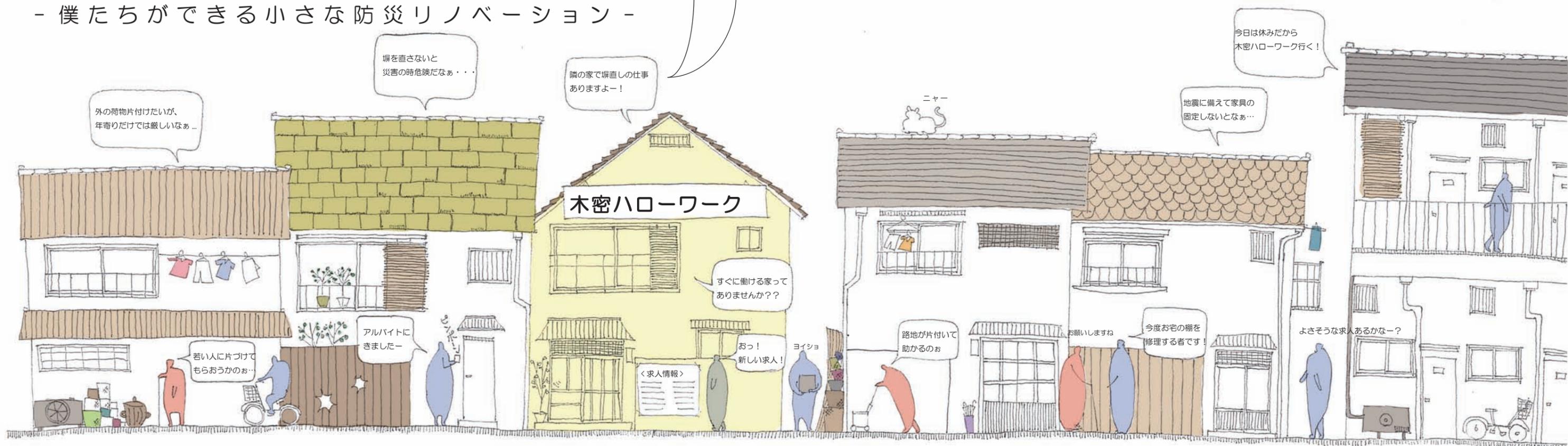
③ 住民→高齢者

ハローワークで自分に合った仕事を見つけた住民は早速高齢者の家へ働きに行く。ここで顔なじみになることで後々に余った手料理のおすそ分けなども期待できる。

④ 高齢者→住民

高齢者は防災対策をしてもらった対価としてお金を払う。はじめは雇用という関係かもしれないが有事の際に安否を気遣ってくれる存在になっていく。

- 僕たちができる小さな防災リノベーション -



<Aさん宅>
高齢者の夫婦宅

物が多くなってしまって仕方なく路地においているが、路地が細く通りにくいので片づけなければいけないと思っている。

<Bさん宅>
独り暮らしの高齢者宅

塀が壊れかけて危ないのを危惧している。

塀の修理
塀の緑化

<求人情報>

Aさん宅	玄関周りの片づけ	¥0000
Bさん宅	塀の修復	¥0000
Cさん宅	路地の片づけ	¥0000
Dさん宅	家具の固定	¥0000

※お問い合わせは木密ハローワークまで!

<Cさん宅>
独り暮らしの高齢者宅

木密ハローワークで路地の片づけをしてくれる人を募集した。

路地の片づけ

<Dさん宅>
高齢者の夫婦宅

木密ハローワークで家具の固定と棚の修理を依頼した。

家具の固定
棚の修理

<アパート>
貧乏学生やシングルマザーが住んでいる

木密ハローワークで求人を探したり、ハローワークでパートをしている。求人や依頼に来た高齢者とも顔なじみになっている。